

Uターン経験者が語る、出会いの物語

生まれ育った故郷から離れた場所で進学・就職していた人が再び地元に戻ってくる、いわゆる「Uターン」。今回の特集では自分の好きなことを仕事に活躍するUターン経験者、柏木綾子さんにインタビュー。そこには毎日をワクワク過ごせるような出会いがあったといいます。市制70周年を機に再度府中の「人」の魅力にクローズアップします。

ここに帰ってきて、見つけた出会い

1人娘だったので「家を継ぐんだなあ」という考えは最初からありました。Uターンのきっかけとなったのは娘が保育所に入ることでしたね。就学したときに友達が変わってしまったのが気になって、娘が2歳頃のときに帰ってきました。

帰ってきてからは子育ての環境が変わったところから始まって、地域ならではの独特な「人との距離感」がつかめなくて最初はしんどいなあと思いましたね。仕事も実家の事務の手伝いで気分を変える機会もなくて。家から出られなくなった時期もありました。

気分を変えたいと思っていたときに「天領上下ひなまつり」で、ベビーグッズや着ていない子どもの服を売るためにフリーマーケットの出店の機会がありました。出店者会議で、皆さん着物でお店を出されることを知ったんですが、私、帯だけ持っていなかったんです。そこで初めて、着物専門店である上下スタイルの眞野順子さんを訪ねたのが出会いの始まりでした。そこからいろいろなイベントに出るようになって悩んでいたことが急に小さく思えてきたんです。

結局私が苦しかった原因は、自分で自分に「こうあるべき」と言い聞かせていたからだと見詰め直しまして。順子さんは「帯

のここは100均の靴紐なのよ」とか、「こうじゃないといけないとかはないから」とヒントをくれたんですよ。そこから着想を得て畳の縁をアクセサリにするというライフワークにも巡り会いましたね。

たぶん上下に帰ってきてなかったらこの仕事はやってないんじゃないかと思えます。上下にいたからこそ順子さんを見つけて出会えたし、この仕事にも会えた。住む場所が変わることって不安だしギャップがあると思います。でも環境は違っても何とかできる。大切なのはつながる最初の誰かを見つけること。都会に比べて人は少ないけど、だからこそ自分が楽しく活躍できる場所は見つかりやすいと思いますよ。

柏木綾子さん
2016年に尾道市から上下町にUターン。一児の母。

えん
”縁”が結んだ

へり
畳の”縁”のアクセサリ



へり
畳の縁を使ったイヤリング

オリジナルの手作りアクセサリ。
Instagramを通じて制作依頼を受け、
唯一無二の商品を作ること。



こはるえにし
9月に店舗“小春縁”をオープン

上下町の観光に来た人にも立ち寄ってほしいという思いも。
将来は海外進出も視野に。

所 上下町上下852



店内に並ぶおしゃれな畳の縁のアクセサリ



中にはここでしか
出会えないデザインも

みんなの楽しい居場所を
つくりたい！

上下町でマルシェを開催！

街歩きマルシェ

てくてくin上下

時 11月23日(土)、24日(日)

10時30分～15時

所 上下公民館、旧瀬川百貨店

